



リアン つくば

Lien Tsukuba

つくばニュース

聖アンソニー看護大学が 視察・講演のために来院

平成 26 年 5 月 30 日、米国の聖アンソニー看護大学から 4 人の看護師の方々が筑波大学附属病院の視察に訪れました。皆さんは 5 月 19 日に来日し、熊本市、福岡市、京都市、富山市の各病院を回られ、少しの疲れもみせず熱心に病院内を見学されました。筑波大学附属病院の印象は、第一に最新の医療技術を導入したハイテク病院である、第二に総合大学ならではの工学、芸術分野とのコラボレーションが行われていることなどを挙げられました。さらに、看護師の印象を聞くと、自分たちの病棟にプライドを持っており、チームワークでいい病棟にしようとする意欲を強く感じると語ってくれました。メンバーは日本人女性が 1 人と米国人女性が 3 人で、米国人女性の皆さんはいずれも日本は初めての訪問とのこと。日本人の礼をつくした歓待にいたく感激されたようです。

来日してわかったことは、医療については米国も日本も同じような課題を抱えていることだと彼女たちは言います。日本はできるだけ早く患者さんに社会復帰していただくために迅速な治療、看護を提供しますが、米国の救急病院は入院期間が短すぎて十分な治療ができないまま退院してしまうことが問題になっているそうです。たとえば脳内出血の緊急入院では 3 日以内、心臓のバイパス手術でも 5 日以内に退院することが求められ、退院後は自宅療養もしくは療養型病院への転院となることが多いとのことでした。

日本でも課題になっているのは転院です。例えば、救急車で救急病院に入院した後、容態が安定してほかの病院に転院することの難しさが指摘されています。病院は多数ありますが、それぞれ役割を持っており役割に応じた治療を行っています。そうしたことを

患者さんに理解していただいて、効率的な医療を提供しなければなりません。役割に応じた医療連携、これが日米共通の課題となっているようです。

夕刻 17:30 からは米国側からのプレゼンテーションが行われました。テーマは「アドバンス・ケア・プランニング」。これは、患者さんの意思決定が低下した場合に備えて、患者さんばかりでなく家族を含めて具体的な治療・療養の方法を事前に確認し合うことで、高齢化社会を迎えた日本にとっては重要なテーマとなりました。まだ日本では耳慣れない言葉ですが、患者さんと病院が互いに納得し合った治療を行うためには必要なものとなるでしょう。会場のけやきプラザには約 140 名が参加し、講演終了後には熱心な質疑応答が行われました。



講演されたエリザベス・カーソン教授



展示パネルについて質問するディナ・ダーモディー講師

茨城の医療を考えよう

患者さんによりよい医療を提供するためには、地域の基幹病院との連携が欠かせません。当院の取り組みをシリーズでご紹介していきます。

第1回 茨城県の医療状況と医療連携の取り組み

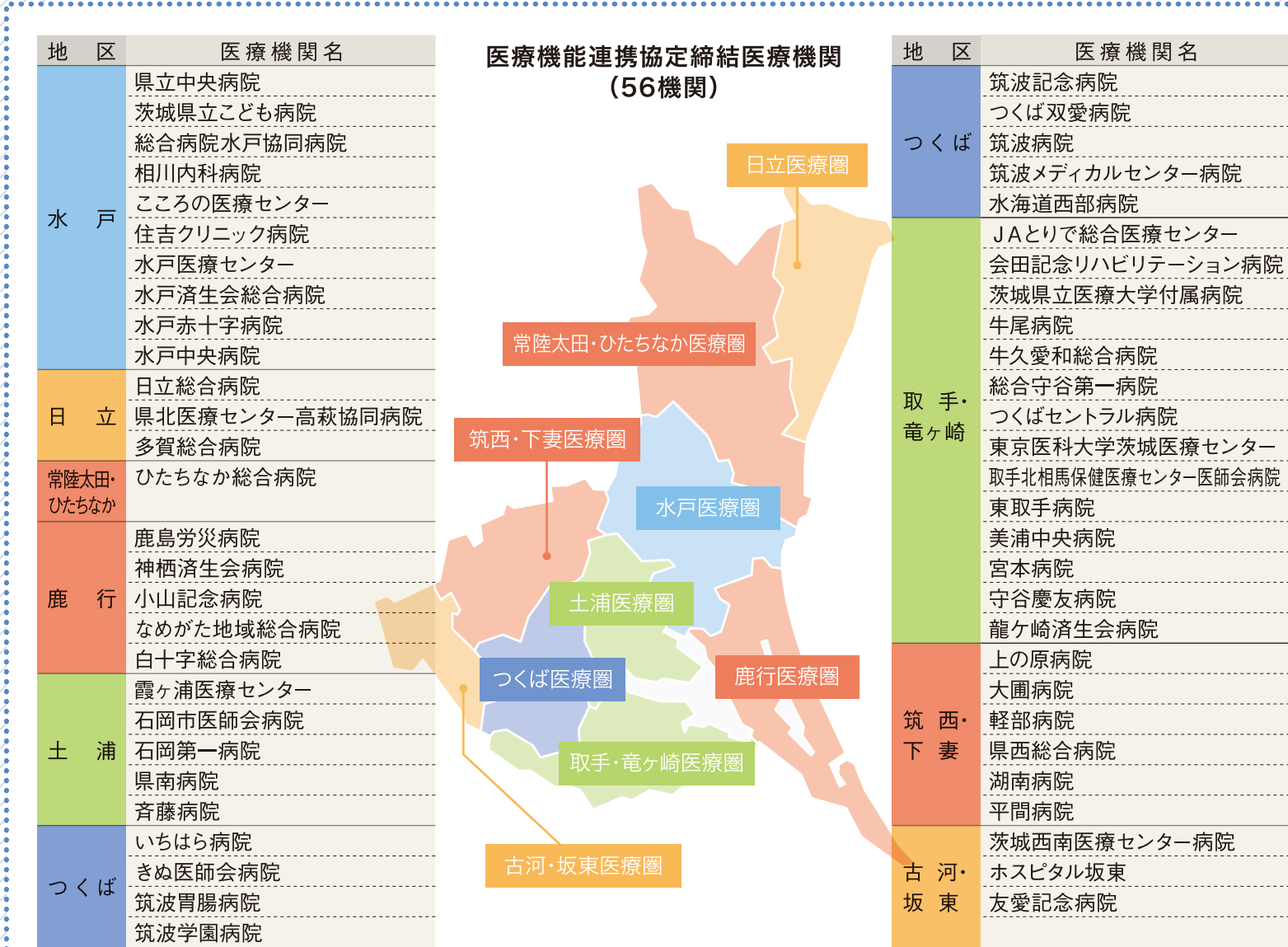
茨城県の医師数は、埼玉県に次いで全国ワースト2(人口10万人当たり)となっており、こうした医師不足は茨城県全体の地域医療の崩壊を招くことになりかねず、安心な医療を提供できる対応策が求められています。

筑波大学附属病院はこうした状況を解決すべく、地域の病院との連携強化のため平成26年2月までに県内56の医療機関と連携協定を結びました。この連携協定を結ぶことによって、救急医療や先進医療を必要とする患者さんは、速やかに大学病院に移動することができ、回復後は元の病院に戻って治療を続けることも

可能になりました。大学病院と“かかりつけ医”(いわゆる地域の基幹病院)が機能分担することで、各病院間の連携がスムーズになり、患者さんのQOL(生活の質)向上につながります。こうした各病院の役割に応じて治療を行う「医療機能連携」は、限られた社会資源である医療を効率的に使用していくものとして大切な役割を果たしています。

筑波大学附属病院は茨城県や市等と協力し、県下に5つの地域医療教育センターと6つの地域医療教育ステーションを設置し、こうした医療施設に平成26年4月1日現在、57名の医師を派遣しています。

地域医療教育センターは各地域の総合病院の中に設置されており、県北部では日立総合病院・多賀総合病院、県央部はひたちなか総合病院、水戸協同病院、茨城県立中央病院、県南部が筑波大学附属病院(つくば市バースセンター)にあります。6つの教育ステーションは茨城県のほとんどの医療圏に設置され、地域医療に貢献しています。また、国立病院では初の試みで医師会と協力し、取手地域臨床教育ステーションを設置いたしました。筑波大学附属病院は、茨城県の医療の質向上と安心した医療体制整備にこれからも積極的に取り組んでまいります。



再開発プロジェクト 17 「利便施設運営」

TNP 筑波大学附属病院再開発に係る施設整備等事業
つくばネクストパートナーズ

一般食堂・職員食堂において、ヘルシーメニューの提供を開始しました。

6月16日(月)より、A棟3階の一般食堂・職員食堂にて、従来の定番メニューに加え、ヘルシーメニューが登場しました。提供開始に先立ち、5月13日(火)、病院職員を対象とした試食会を開催し、その中から好評だったメニューを提供させていただくこととしました。ヘルシーメニューでは、無駄な油分を落とす調理法(スチームコンベクション)や、発酵食品の利用、香味野菜や種実類を用いることによる塩分減など、様々な工夫をしています。また、管理栄養士監修のメニュー構成と

なっており、エネルギー・塩分の過剰摂取を防ぐ工夫をしています。筑波大学附属病院としてふさわしいメニューを提案し、バランスを考えた健康的な食事をサポートしていきたいと考えております。この機会にぜひ、お試しください!

【場 所】A棟3階
【営業時間】●一般食堂 平日土日祝 7:30~20:00(年末年始 休業)
●職員食堂 平日 11:00~14:00(土日祝、年末年始 休業)



根菜のボトフ



スープカレー

その他のメニューとして、若鶏の卵けんちん蒸し、チキンソテーのサラダ仕立て、さわらの柚子あんかけ、鶏肉のなめこおろし煮、ゆで豚の香味ソース、鶏じゃが、生姜風味肉豆腐など、順次、提供を予定しております。



カフェリアンのレシピ集

ブロッコリーと りんごのスムージー



【材料(作りやすい分量)】ブロッコリー100g、りんごジュース300cc
【作り方】①ブロッコリーの軸をカットして房の状態にします。②①とりんごジュース少量をミキサーにかけます。③残りのりんごジュースを全部加えてミキサーでさらに攪拌します。

パプリカと トマトのスムージー



【材料(作りやすい分量)】赤パプリカ50g(約1/4個)、人参50g(約1/2本)、トマト100g(小1個)、オレンジジュース100cc
【作り方】①赤パプリカは種とヘタをとり、人参は皮つきのまま、トマトはヘタをとり、それぞれ一口大にカットします。②ミキサーにすべての材料を入れて攪拌します。

ビタミンたっぷりスムージーで「夏の日差しに負けない!」

7月に入ると、急に空の色も夏の色に変わったような気がします。太陽も一段と強く大きく感じます。夏の日差しはバカンスの匂いがして魅力的ですが、強い日差しは体にダメージを与えてしまいます。今回は、夏に負けなかったためのスムージーの紹介です。太陽を浴びて育った野菜には、体を守るビタミンやミネラルなどが多く含まれています。ブロッコリー、パプリカ、トマトを使ったビタミンたっぷりのスムージーをお召し上がりください。(このメニューは9東病棟の自由選択メニュー食で患者さんに提供しました。)(管理栄養士:岩部博子)



病院サポーター

さまざまなかたちで患者さんやご家族をサポートするスタッフをご紹介します。



王肖音さん(写真左)
科学技術国際交流センター
総合サポートセンター副参事

「医療通訳ボランティア」

中国で生まれ、カナダ滞在を経て現在はつくばに住む王さん。つくば市役所の国際交流員を5年経験し、現在は科学技術国際交流センターで、入国から帰国まで海外の患者さんをお世話しています。医療通訳をしていると、いろいろと考えさせられます。特に、がん宣告や移植手術のための調整は、その国の文化やその人の背景を考えての通訳を行っています。辛いこともあります。感謝の言葉をいただいたり、出産に立ち会わせてもらったり、感動的な

出会いもたくさんあります。24時間対応のため、夜中や休日でも電話が多くて大変ですが、とてもやりがいのある仕事だと思っています。海外の方で、お困りの方がいらっしゃいましたら、いつでもご連絡ください。(TEL:029-853-8250(日・英・中))

科学技術国際交流センター(JISTEC)
科学技術分野の研究支援や交流等を通じて科学技術の振興を図り、国際社会に貢献しています。 <http://www.jistec.or.jp/>



TSUKUBA ホスピタルアート

「ホスピタルアート（病院アート）」という言葉をご存じですか？ 病院と芸術のコラボレーションによって、病院内に癒しを提供し、治療の効果向上につなげようとする活動です。今から 20 年程前にイギリスで始まり、世界のさまざまな国に普及しています。筑波大学附属病院でホスピタルアートが始まったのは今から 10 年ほど前のこと。筑波大学芸術学群の学生に“未来の病院”を考えてもらおうという企画がきっかけでした。2005 年、「病院の空気をおいしくする」を合言葉に本格的に活動をスタートして以

来、芸術学群の学生チーム「アスパラガス」と病院スタッフによるホスピタルアートは、患者さんや病院で働く職員に、癒しや作る楽しさだけではなく“集う楽しさ”も提供してきました。

アートスペース「SOHO」での展示や院内でのワークショップ、“つくばの森”をテーマとした小児総合医療センターの内装に加え、ホスピタルアートの発祥地であるイギリスで視察を行うなど、今後ますます活動の輪を広げていきます。

（アートコーディネーター：渡邊のり子）



「いろどりおりょうさんカフェ」の様子

2014年10月、当院内にて筑波大学学生による「アーティスト・イン・ホスピタル2014」が始動する予定です。ご期待ください！

安全な医療のためのワンポイントをご紹介します。

病院生活のしおり

「氏名確認にご協力ください」

外来と入院を合わせると毎日約 3000 名近い患者さんがいる当院では、万一の事故を防ぐためにも患者さんのご協力が不可欠です。皆さまのご協力をお願いいたします。

（医療安全担当看護師長：高梨典子）

外来

治療や検査等の際には、患者さんご自身にお名前と生年月日をお答えいただきます。

入院

個人を識別するためのネームバンドを装着していただき、同姓同名等による間違いを防ぎます。バーコードを読み取るときは患者さんにお名前を名乗っていただき、二重でチェックします。また、お薬やお食事にはバーコードが付けられないため、口頭でお名前を答えていただきます（お名前を言えない方はネームバンドやベッドネームで確認します）。



次回は「転倒・転落防止」です。

インフォメーション

看護師（新卒者・経験者）募集

応募資格	看護師・助産師の有資格者、または、2015年3月看護学校卒業見込みの方
応募方法	看護部HPのエントリーフォームに入力・送信後、以下の書類を提出してください ①履歴書（自筆、顔写真貼付） ②面接参考書（自筆） ③職務経歴書（※職種を問わず職務経験がある者） ④成績証明書（※新卒者のみ） ※①～③は当院指定の様式。看護部HPからダウンロード可
選考方法	面接
日程	看護部HPに掲載（※ご都合があわない場合はご相談ください）
提出先	〒305-8576 つくば市天久保2-1-1
お問合せ	筑波大学附属病院 総務課看護職員募集担当 TEL 029-853-3512/3514 E-mail byouin-jinji@un.tsukuba.ac.jp

お待ちしています！



当院では、キャリアも出身も学歴も、実にさまざまな職員が働いています。採用面接は、これまでの経験や現在のお考え、将来の目標などをお伺いし、ともに働く“仲間”になれるか、お互いが確かめ合う場だと考えています。お決まりの志望動機や飾り立てたコトバは必要ありません。なぜ当院で働きたいと考えたのか、率直なお気持ちをお聞かせください。楽しみにお待ちしております！

リアン 編集後記

皆様にお届けしてきた看護部ニュース「リアン」は、今年度より病院ニュース「リアン」にリニューアルいたしました。時代のニーズに合わせた医療と看護を提供し、さらに皆様のお役に立つ情報発信ができますよう活動して参ります。ご意見等ございましたら、「患者の声」にお声をお寄せいただければと存じます。今後ともよろしく願い申し上げます。（看護部：田村恵美、馬場玲子／総務課：丸橋崇、植田雅弘）